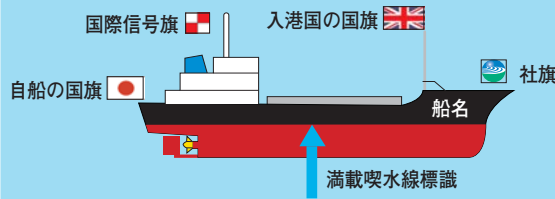


## <船の表示>



船舶には、船自体を識別するためのものや、安全の確保又は通信手段として様々なマーク、信号が表示されています。

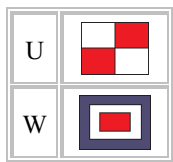
「船の物知りコーナー」の第1回は、これら表示のうち主だったものを紹介しますので、港に停泊している船を良く観察していただければ幸いです。

### 船の国籍と旗

人間と同じように船にも国籍や戸籍があり、船尾にはその船の国籍を表すため国旗が掲げられます。また船尾の船体には、その船の戸籍が置かれている港名(船籍港といい、日本籍の船であれば東京、神戸など、またリベリア籍であればモンロビアなどで、いわゆる母港です。)が船名とともに記載されます。

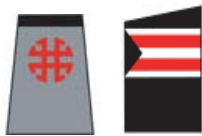
旗は、船の意思表示の手段として多用され、外国の港に入港する場合には、敬意を払うため入港国の国旗をマストに掲げ、船首にはその船を所有している会社を表す社旗が掲げられます。

### 国際信号旗



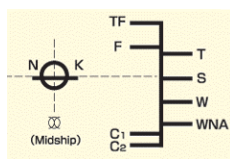
世界共通の通信手段のひとつで、26種のアルファベット文字旗や10種の数字旗など合計40旗あり、1旗で1文字を表すほか、1旗から4旗までの組み合わせで様々な意味を持たせ通信に用います。例えば図はUとWを表す旗ですが、これを組み合わせて船上に掲げると「I wish you a pleasant voyage.」を表します。因みに1805年のトラファルガー海戦で、ネルソン提督が指揮下の英艦隊を激励するため送った「England expects that every man will do his duty.」の言葉もこのような信号旗を組み合わせて通信されました。

### ファンネルマーク



「船の絵を書いて見て」と言われた時に、多くの人が煙突(ファンネル)も書き添えることと思います。船の推進機関用の排気管とすれば、現在、煙突をあのように大きく造る必要はありませんが、このように船を特徴づける構造物なので、船体とバランスを取りながらダミーの煙突(化粧煙突)を取り付け、加えて目立つ場所なので図のような各社オリジナルのマーク(ファンネルマーク)で飾っています。このため遠くを航行する船でも、ファンネルマークを見るとその船の所属会社がわかるのです。

### 満載喫水線標識

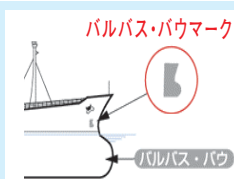


満載喫水線標識は、船を安全に航海させるため、荷物を積んだ場合に船体を最大ここまで沈めても良い限界を示すマークで、誰が見ても分かるように船体の中央両舷に表示されています。どの海域を航行するかで、マークの形状がリングや逆三角形に変わり、平穏な内水面を航行する船では表示していません。図は外航船用のマークで、リングの部分の「NK」は検査機関の略称を、沈めても良い限界を示す目盛りは、海域や季節に対応して、Fは夏期淡水、Tは熱帯、Sは夏季、Wは冬季などを示しています。

### その他



ドラフトマークは、船体がどれだけ沈んでいるかの目盛りで、積荷量の確認等に用います。



バルバス・パウ(造波抵抗を低減するための球状の船首構造)が水面下にあることを知らせ、小型船の乗り上げ事故等を防ぎます。



サイドスラスタマーク

サイドスラスタ(船を横方向にスライドさせるプロペラ)があり、作動の際、水流が起きる場所であることを知らせます。